

高田測候所の跡地利用と資料の活用

9月27日の一般質問で聞きました



用がなく
なつた
場合に
は土地
や建物と
いうのは地

高田測候所が無人工化されるということ
で、昨年、私も議員団で、測候所を訪
問いたしました。そして、当時の所長さ
んや職員の方からいろんな話を伺い、測
候所の中をくまなく見学させていただき
ました。屋上にも登って敷地の広さに驚
いたり、いろんな樹木が植わっているの
に目を見張ったりし、いろんな宝物があ
そこにはあるなあと思いつつ、帰ってき
たわけです。

だんだん無人化が近づいてきて、同じ
ように無人化された測候所の状況はどう
なっているのか調べてみました。伏木と
いうところの測候所がありました。この
測候所は今、博物館のように活用され
ております。この測候所の土地、建物は、
もともとは伏木の住民の方が、国の方に
——少しいろんな経過があるようですけ
れども——最終的に国の方に寄付をされ
たというような形でできた測候所だそう
です。そうした

元に格安でというか、有利な条件で譲渡
するという制度があるというのを聞きま
した。それで上越市の高田測候所はどう
かと調べてみますと、ここも民間から譲
り受けて国の測候所になったという経過
がありそうだとということが分かってきま
した。

測候所の無人化というのは何のために
やるかといいますと、国の財政難のため
に、測候所の土地・建物等売り払って、
その収入を当てようということ。そ
うすると、測候所の跡地を放置しておけ
ば、誰かに売り払われてしまつて、民間
の土地になるかもしれない。そうしてあ
そこに、たとえば住宅ができる、ビルが
できる、こういうことになつたらどうな
るかなあと考えてみました。今まで高田
の測候所というのは、あれだけの広大な
土地の中で、人家が離れていて、自然に
近い環境で観測をしてきたわけです。そ
れが今度、民間に売却された結果、そう
いう観測条件が違つてきてしまつたら、
今までの測定データと継続性がなくなつ
てしまふのではないか。このように思いま
して、それで市の担当の皆さん方に、「こ
れはこのまま放置しておくとうまくない
よ」ということで、お願いをしてきたわけ
であります。

これを有利な条件で取得するためには、
活用方法があるかどうかのポイント
だということ。その後分かつてまいり
ました。それでお聞きしたのでありま
すが、市があつた土地を取得すること
ができたとすれば、どういふふうな活用
方法を考へているか、この点について
お聞きしたいと思います。

【市長答弁】

高田測候所は、大正10年12月に県
営観測所として開設され、以来86年間
に渡り当地域の気象観測業務を行つて
まいりました。本年10月1日以降は無
人工化されますが、引き続き各種気象
観測業務が継続されることから、その
良好な観測環境を維持することは、
市民の利益につながるものと考えて
おります。

こうしたことから、同測候所の敷地は、
公的管理の下に置かれることが望ま
しいと思つたので、今後、良好な観測
環境を確保していく観点から、土地
の具体的管理や有効活用などにつ
いて検討を進めながら、気象庁の
担当者との協議を考へてお
ります。

日本共産党上越市議会議員 杉本敏宏の

市政レポート

2007年10月7日 No.160
発行・杉本敏宏事務所
上越市東本町5丁目1番38号
TEL 025(524)3787 FAX 025(524)3832

測候所の資料の活用について

さつき測候所にいろんなお宝があるという話をしました。実際行つて見た時に、さまざまな書籍や写真、古い機器とか、いろいろあるのが分かりました。これが無人化で、放置しておけば散逸してしまう恐れがあります。これは上越市にとつても過去から蓄積された気象のデータですから、非常に有用な資料だと思います。

それで、これも何とか手に入れることができないだろうか、行政の皆さんにお願いをしてみました。ここ数日の間に、マスクミでいっせいに報道されましたが、上越市にかなりの部分を譲り渡すことになったようであります。その経過等について、また、その活用方法についてもお聞きしたいと思います。

【市長答弁】

本年7月、高田測候所から10月1日からの機械化・無人化に伴い、開設以来86年間蓄積された貴重な気象図を始めとする気象資料や書籍などについて、上越市で保存してもらえないかとの打診をいただき、当市としても、地域に密着した公文書館作りを目指して、地域の貴重な資料の収集に力を入れて取り組んでいることから、願ってもない申し入れとして早速、これから歴史的な気象資料の譲与について協議をさせていただきます。その後、高田測候所から、気象庁本庁図書館や関係機関に移送される以外の資料をすべて当市に譲与するとの連絡があり、

ご案内のとおり、去る9月18日にこれら資料の譲与を受けたところであります。

気象観測のデータは、86年以上前からの記録が保存されており、この地域の気候変動を知る上においては、貴重な資料であると考えております。また、雪に関する論文や我が国における数式を用いた桜の開花予想の草分けである当時高田測候所職員であった佐々木孝一氏の論文のほか、戦時中は軍事機密とされていた気象情報など、約2千点にも及ぶ貴重な資料であります。

これらの気象資料は、学術研究や学校教育はもとより、雪害対策や農林水産業の振興などに今でも役立つものでありますので、今後、早急に整理作業を進め、広く市民の皆さんへの利用に供してまいりたいと考えております。また、高田測候所は、大正10年に高田市民の強い要望によって開設された歴史的経緯がありますので、その思いを後世に伝えていくためにも、これら資料を活用した資料展を開催するなど有効に生かしてまいりたいと考えております。

【再質問】

跡地や施設は、公的な管理するのが望ましい



9月25日のお月さま

という答弁でした。私もそう思います。そうしないと、データの継続性がなくなってしまう恐れがありますので、これは是非、その方向で進めていただきたいと思えます。それで、相手との折衝の問題もありますが、見通しと、格安にどうか有利な条件で入手できる方向での話がどんなふうに進んでいるか、お話できる範囲で、お聞きしたいと思います。

それからもうひとつ、資料の問題ですが、この測候所にあつた資料のうち、いくつかは気象庁の方で持つていかれたということす。その、持つていかれたものについて、少なくともコピーをいただく、そしてそれも含めて高田測候所の86年間の資料とすべきではないかと思ひますが、そういうお考えがあるかどうか。

三つ目は、資料展などという話がありました。ぜひやっていただきたいと思ひます。その時に、高田測候所を開設する時に住民の皆さん方がいろんな尽力をされたわけですが、その歴史をこの資料展の中で打ち出してもらえないだろうか。そのことによつて、高田の人つてすごいことをやったんだなつてことが、後々の人たちにまで受け継いでいくことができるんではないかと思ひますが、そういうお考えがあるか、その三点をお聞きします。

【再答弁】

いずれも、実施の方向との答弁でした。

東本町通り、北本町通りなどの側溝の改修について



上、北本町3丁目の側溝
下、東本町5丁目の側溝



今日は写真を持ってまいりました。

この一枚は、北本町3丁目の側溝の状況です。北本町通りというのは、山麓線がでままして、それが県道になって、北本町通りは市道になったという所です。

これは私が住んでおります東本町5丁目の側溝です。草が生えています。この草は、側溝にたまった土に生えているのではないんです。下のコンクリートを突き抜けて、根が下の土にまでいつている、そういう草です。実はこの路線も、飯門田新田線の城北中学校から東の方が県道になって、それに振り替えられた所です。

私はこの路線が県道の時代から、何とかならないのかと求めてきました。

実は昭和30年、私がまだ小学生の頃にこの側溝が造られたんです。これを放置しておいて、いいだろうか。ぴかぴかの市道とぼろぼろの県道を振り替えるなんて、そんなおかしな話はないじゃないかって、そ

んな質問もさせていたできてきました。でも現状まだこういうことです。

それで、高田のまちの中の流雪溝といったものの計画、青田川から西の方については計画があるというのは、以前に質問した時にもそういう回答がありました。青田川から東の方については、まだそういう計画がないのです。是非これは早くつくって、進めていただきたいと思っています。

その際、これは仲町6丁目の所の写真です。これ流雪溝です。側溝は、前の側溝がそのまま残っているんです。側溝を残したまま流雪溝を造った例です。それから、これは今井染物屋さん裏、西城町と大町の境のところの道です。流雪溝がありますが、用水がそのまま並んで流れています。私はこういう改修はしてもらいたくないんです。今まだ県道で残っております東本町2丁目は、側溝をそのまま流雪溝に改良してあります。やるんならこういうふうにしても

らいたいと思っておりますが、そういうことも含めて、改修計画、市の計画どうなっているかお聞きをしたいと思っています。

【市長答弁】

旧上越市の市道延長が約901kmあり、すべての市道の両側に側溝があると仮定すると、その延長は膨大である。この内、市街地の道路側溝は昭和30年代に築造されたものが多く、場所によってはコンクリートの劣化が進んでいるが、その多くは現在でも通常の機能を果たしている。

東本町通り、北本町通りは、平成13年3月にそれぞれ県道から市道に編入されたものであるが、コンクリートの劣化が進み、改修が必要な時期となってきた。

しかし現状においては、近年の豪雨による溢水などの被害を受けている箇所や、底勾配が悪く、水が流れない箇所など、面的に整備が必要となっている地域の対策を優先しなければならぬ。その整備完了までにはしばらく時間が必要である。

市に寄せられる道路関係の施工要望のうち、側溝改良は約57%で、要望に速やかに応えきれない。

このようなことから、現在進めている面的な整備箇所の事業進捗を見ながら、コンクリートの劣化が進み、道路側溝の機能を失いかけている路線など、市全体の優先順位を考慮し、順次、整備計画に組み入れたと考えている。

【再質問】

まあ、たいへんひどい所だということはお分かりなんだと思います。下水道も完備されましてから、あれで人が死ぬとかですね、というような問題でないことは確かなんです。でも、そこに住んでる人からしてみれば、昭和30年代です。それからもう50年近く経つわけです。それがそのまま放置されている。住民から見れば放置ですよ。放置されていて、で、さっき写真でお見せしたように、草がもうコンクリートの下まで根をはやしているような状況があったり、これはやっぱりですね、人命にかかわらないからいいやつてわけにはいかないだろうと思うんです。ですから、そういう観点ですね、「財政が」という話も解からないではないです。「緊急にや

らなければならん所があるんで」というのも解かります。でも、でもやはり同じ上越市の住民として生活しているわけですから、これはやはりきちつと整備をしていただく必要があるんじゃないかなと思うんです。そのためにも、まずは計画ですね。計画を立てる、立

下、東本町2丁目の改良された側溝兼流雪溝



上、仲町6丁目の側溝と流雪溝
右、今井染物店裏の用水と流雪溝



ていただく必要があるんじゃないか。流雪溝に通ずる部分があるんですから、そういったことも含めて、特に青田川から東の方の側の計画、早急に作る必要があるんじゃないかと思うんですが、その辺お考えをお聞きしたいと思えます。

【再答弁】

北本町、東本町の道路側溝が、昭和30年代で非常に老朽化をしているというのは、承知をしている。現在8地区で面整備を行っている。ここ2、3年でということとは難しいが、半分が平成25年で完了する。4ヶ所が完了すると少し余裕ができる。計画性を持って、昭和30年代の側溝は他にもあるので、全体を見た中で、計画的に整備をしていきたい。

流雪溝に通じるという話があったが、敷設にはいくつかの方法があるが、議員の提案のとおり、特殊な要因がなければ、道路側溝を流雪溝として利用するのが一番合理的でコストも抑えられると考えている。技術的な面からも検討したい。

